

発表者：ライフデザイン学科親泊ゼミ3年 石井麻菜、田村理江、福田茜

みなさん、こんにちは。これから私たち江戸川大学、親泊ゼミの活動内容報告を始めたいと思います。私たちは親泊素子教授のもと、世界の国立公園研究や国内海外のボランティア活動、また、国際支援活動を行っています。今回報告させて頂くのは、江戸川大学平成13年度卒業生の成田征道を中心として行われてきた「JSCV 学生保全ボランティアの会」が行ってきた活動内容です。「JSCV」とはJapan Student Conservation Volunteers の略称で、自然保護を中心とする国内外の環境保全ボランティア活動に関心と意欲を持つ学生たちが始めた会です。それでは、実際におこなってきた活動内容にうつらせていただきます。

近年ベトナムでは、経済発展の為に急速な都市化と工業化が進んでおり、それに伴ってベトナムの貴重な豊かな自然が失われてきてしまっています。そのため、子どもたちが自然と触れ合う機会と場所が減少しています。その一方で、はじめ11か所だったベトナムの国立公園の数は現在では30か所と増え、中央政府をはじめ地元自治体はその整備に追われています。このような急速な国立公園の増加の背景には、ベトナムの豊かな自然環境の保護という目的のほかに、「環境教育の推進」と「エコツーリズムの発展」が考えられています。ベトナムの国立公園や保護地域周辺では、国も地方自治体も観光客受け入れのための整備に追われ、情報整理と情報提供がおろそかになりつつあります。また、エコツーリズムの事業者も観光客も、自然に対するしっかりした見識を持たないと、エコツアーが単なるブームにとどまってしまう、自然に悪影響を及ぼす結果になりかねません。このようなことから、都市部に住む人々や国立公園周辺に住む人々にベトナムの貴重で豊かな自然について知ってもらうことからはじめ、自然の大切さや国立公園の意義について理解が得られるように、自然保護教育が必要となってきます。ベトナムの国立公園制度の急速な展開に国民の意識と関心が追いつくためには、日頃自然との接触が少ない都市住民にも、また当の国立公園地域を利用して暮らす先住少数民族といわれる地方住民にも、積極的な啓発活動が必要であり、それも非常に急がなければなりません。この目的を果たすために、JSCVは、ベトナムでその役割を主になっているNGO、ベトナム国立公園協会と共に、次の三つのプログラムを柱とする事業を行いました。

1、ハノイ市内の小・中学生を対象とする環境教育プログラムの実施

2、ハノイ市内で、国立公園・保護地域の情報を提供するセンターの開設

3、公園周辺に移住する少数民族の生計を助けて、自然破壊に繋がる行為を防ぐ目的での、伝統工芸ネットワークの構築

< 1. 環境教育プログラムの構成 >

環境教育クラスを実施するにあたり対象としたのは、都市部であるハノイに住む子供たちです。急速な都市開発、経済成長を遂げているベトナムですが、それに伴う環

境問題から目をそむけてはならない状況に陥っています。特に都市部では、大気汚染、水質汚染、大量に廃棄されるゴミが深刻な問題となっています。こういった身近な環境問題を取り上げることで、関心を持たせることができると考えました。主にゲームを取り入れた、楽しみながら学ぶことができる参加型というものです。環境教育クラスのレクチャーを受けた子供たちの人数はこれまでに1800人を超えています。

< 2. NPC (National Park Center=国立公園センター) > NPC 設立の背景は、ベトナムにある国立公園の指定がここ数年の間に増加しており、中央政府や地方自治体などはその整備に追われていることにあります。これにより、国立公園・保護地域に関する情報整理や情報提供はビジターのニーズに十分対応できる態勢が整えられていません。そのため、情報の発信の拠点として、国立公園センターを設立しました。NPC の近くには、少数民族に関する民族学博物館があり、外国人観光客が多く訪れます。NPC の役割は、

- ・都市型のビジターセンターとして一般市民と外国人旅行者に国立公園・保護地域に関する情報の発信拠点となること

- ・ベトナムの国立公園・保護地域での生物多様性保全のため、国立公園に関する知識や意識を啓発することを目的として、都市部（ハノイ）の住民、とりわけ子供たちに環境教育を推進させるための活動拠点となること

- ・少数民族への経済的支援のための伝統工芸品の展示・販売の場となること

です。NPCは、情報提供の発信拠点として稼働しています。インターネットで検索できるパソコンを配備しており、環境教育に関するイベントなど広報活動を促進していけば、都市部に住む多くの子供たちに環境教育を広げることができると考えています。また、NPCには、ベトナム各地より集められた文献、そして各国立公園に関する資料も多くそろえられており、さまざまな環境国際NGOより提供された環境教育やエコツーリズムに関する文献も多く貯蔵されています。ハノイの大学ではエコツーリズムへの関心が高まってきており、その情報収集のためにNPCへ足を運んでくる学生たちも多いです。NPCが果たしている情報提供の役割は大きなものであると考えています。近年の急激な経済成長で、世界から注目されているベトナムは、全国規模で次世代を担う子供たちへの環境教育推進という事業を展開していく必要性が高まりつつあり、その対応が急がれます。その活動拠点として、そしてベトナムに今までなかった都市型ビジターセンターとして、事業展開に期待したいと思っています。

< 3. 少数民族支援のプロジェクト > 少数民族の多くは、動植物をとることが生活の支えの一つとなっています。保護地域内での動植物の採取は違法行為ですが、彼らは生物多様性の重要性や自然保護の大切さについての知識が十分でないのが実情です。また、知識があったとしても貧困ゆえ

にこうした違法行為をやめることができないでいる格差社会でもあります。私たちが拠点に置いたサパという町は少数民族のメッカであり、美しい棚田が広がっていますが、その耕作は気候条件に左右されることが多いため、生産性の悪いものとなっています。これも貧困を招いている要因の一つであり、棚田の耕作放棄により文化的景観の破壊も懸念されつつあります。また、子どもたちが出稼ぎに行くことにより、教育レベルの低下ということも貧困が引き起こしている問題でもあります。こういった状況下で、少数民族の経済的な自立と生活安定が必要と考え、それこそがベトナムの生物多様性と文化的景観を保全することにつながっていくものと考えたのです。その解決策の一つとして、少数民族の作る刺繍の美しい伝統的な工芸品に着目しました。サパの近くにあるホアン・リエン国立公園の周辺にある村落をいくつか視察し、クラフト・ネットワークを構築するための基礎調査を重ねました。刺繍などの美しさは観光客の購買意欲をかきたてるものです。しかしながら、おみやげとしての観点からするとその意欲は半減されるような使い道のないものでしかありませんでした。さらに、道端でその物売りをしていると観光客から不当な値切りを要求され、自ら工芸品の価値を下げる事態を招いていることがわかりました。このようなことから、少数民族たちの意識改善や意見交換としてワークショップを開催しました。ワークショップに出席した少数民族の方々や地方自治体役員、地元の観光局などからさまざまな問題提起があげられ、学生たちと積極的な意見交換が行われました。これまでの現地調査やワークショップなどにより、ホアン・リエン国立公園をはじめ、ベトナムの豊かな自然を護り、少数民族の支援をしていくには、今、まさに私たちがアクションを起こさなければならぬと思っています。

今年度の活動では大学の専門研修としてベトナムのサパ、ハノイ周辺の視察を行いました。この視察では、調査だけにとどまり、具体的な活動ができなかったことが心残りです。豊かな自然と子供たちの可愛い笑顔のためにも、またベトナムへ行きたいと思っています。以上で、江戸川大学の活動内容報告を終了したいと思います。2階の「展示ホール」と「会議室2」で活動内容の展示をしていますので、是非ご覧下さい。また、ベトナムで集めた工芸品や成田が撮った写真とポストカードの販売もしています。最後に、私たちJSCVの合言葉で締めたいと思います。

「Right Now, Take Action!!」ありがとうございました。